

第2回ステップアップ会議の概要シート

○第2回本日の気づき ～連携～に関すること

No.	項目	概要	備考
1	顔を合わせた交流の場を作る	意識の底上げをするため、交流する場が欲しい	
2		年に1～2回はこのような意見交換ができる場の設定！	
3		連携するために交流する場が必要	
4		お互いの顔を見て話ができる場・施設が欲しい	
5		顔を見ながら情報共有をする場を多く持つこと(関係者だけでなく一般市民も)	
6		交流会を持って話し合う	
7		人同士が知り合う機会を	
8		他の地区の情報を知る 人の交流を行う	
9		他者を知る	
10		まず自分の地域やサイトで人を知ろう	
11		人と人が知り合える場所に積極的に参加することが大切である	
12		いろんな分野の方とたくさんつながる	
13		分野別の交流会の開催	
14		自分が知らなくても聞ける人をもつだけでも連携に繋がる	
15		ガイドさんのエリアを超えた連携連絡が大切	
16	一体感・共通意識を持つ	共有して、意識して、一体感みたいなものを	
17		山陰海岸ジオパークとして、当面の共通目標を作る	
18		共通意識が持てるように	
19		共通の目標をキャッチコピーにする	
20		ジオパークのストーリー・理念の再確認	
21		エリア全体のパンフレット作製	
22		ジオパークのガイドブックの出版	
23		ジオパークのまるごと体感MAPをバージョンUP	

No.	項目	概要	備考
24	情報の共有	情報共有	
25		情報共有(発信側、受けて側)	
26		行政官、官民等の情報共有の場が必要	
27		情報共有 さまざまな(官民)ジオパーク活動を一元化(推進協HP) 各団体はリンクを	
28		情報をキャッチするアンテナの高さも必要	
29		情報を受け取るアンテナをはる	
30		推進協議会に情報がある程度集めるようになれば共有 に繋がり連携にもつながるのでは	
31		情報共有のシステムを多様化する(メーリングリスト・通 信・マスコミ活用)	
32	情報発信	情報発信	
33		情報発信は国内外へ!! ジオパークエリア内へ!!	
34		活動の情報共有は事前のみではなく、事後のフィード バックも必要	
35		情報を一部の人のみでとどめず、一般の人にまで伝え る方法を考える	
36		ほかもいきたいなあと思わせる情報窓口の設置・電話	
37		推進協議会を中心に各地域にベストな発信をしてほしい 成功例・失敗例	
38		ここがジオパークであることをあらゆる機会ですPRする	
39	連携する必要性に ついて	まず連携の必要性を整理→連携する・しないの判断こ の順序かなあ	
40		連携する必要性があるか確認し直す。何でもかんでも は連携する必要はない	
41		連携する必要性を感じるメリットの提示	
42		連携はやれと言われてやるものではない 必要だからするもの ジオパークの審査のためにするも のではないんだなあ	
43		連携する目的・必要性・メリットの共有	
44		連携することにより生じるメリット・デメリットを絞り出して から進めてほしい	
45		何のために連携するのかを確認する	
46		情報共有・連携のメリットを知ることが大切	
47		連携が必要か=めんどくさい	

No.	項目	概要	備考
48	連携する！	連携はやっているところはやっている	
49		連携は意外と簡単では	
50		連携することによってどんな地域にするかのビジョンを共有することが大事と思いました	
51		共有できるシステムを作る！（メリットを示す）	
52		ジオは地域間の連携のツール	
53		タテ・ヨコ・ナナメのつながり	
54		固定概念をすてて連携を図る必要がある	
55		人が動くための動機が必要。ボランティア精神では限界がある。お金が回る仕組みが必要	
56		連携したくなる仕組み。楽しいものなら続けられるのでは？	
57		お互いの強みを知ると関係を持ちたくなる	
58		連携の必要性を作るには「もうかる」と思える何かを作る	
59		他地域と実際に体験	
60		イベントにお客として参加	
61		次のサイト・次のサイトに動く仕組みの開発 ～楽しい出会い～	
62	観光	観光客目線で考える どんなジオなら来たくなるか。成功するまでやり続けるしか方法はない	
63		笑顔でお別れの挨拶ができるよう細心の注意を払う必要があります。	
64		もう一度来てみたいといわれるよう上手に案内する必要があります。	
65		経済的な概念が欠如している。潤いがなければ市民は動かない。その仕組みづくり、戦略が必要	
66		来訪者に満足のいくガイド ～説明に魅力を～	
67		個別地域を超えたツアーコースの設定とそれを行えるガイド育成	
68		ツアーの振り返りをガイドみんなで共有する	
69		ガイドさんは各地区の名物お土産またはおいしい食べ物お客様に紹介できるように頭に叩き込んでおく必要があります。	
70		ジオと食、ジオと祭りジオと何かを連動させる 楽しい1日	

No.	項目	概要	備考
71	協議会へ・行政へ	初心に還って！！各市町の首長をかつぎだしましょう	
72		各府県市町が独自の事業に取り組むのは山陰海岸ジオの特徴バラバラ感を感じないような仕組みが必要	
73		自治体は民間に観光・経済振興を任せよう！	
74		3市3町に推進体制を組織する	
75		成功した地域づくりには必ず核になった行政の人がいます。 成功するまで責任をもって続ける人になってください。	
76		成功させるために交通機関・旅行者・観光事業者を含めた行政の組織を作って始めてください	
77		行政が心をひらいてくれない 会議にも出席させてもらえない。住民の意見を聞いてください	
78		運営委員会に経済学者や旅行エージェントを入れる必要がある	
79		官にたよらず民で行う	
80		民間ベースのジオパーク団体の設立	
81	コーディネーター不足	コーディネーター・マネジメントする人が必要	
82		コーディネーター組織が必要	
83		コーディネーター役として事務局のレベルアップ	
84		コーディネーターを作る	
85		連携を主導するコーディネーターやリーダーが必要	
86		コーディネーターが必要(リーダー)	
87		一つのチームとしての連携をコーディネーター役が情報を発信することが必要	
88		「山陰海岸ジオ大使」を芸能人スポーツ人から任命しPRする	
89	地域のことに興味を持つ	個々が地域のことに興味を持つ	
90		ジオパークが市民(一般の人に)伝わってない	
91		自分の地域の人とは？	
92		地域全体にジオパークの意識を定着させる取り組みが必要 きめ細やかな話し合う場	
93		関心を持ってもらう	

No.	項目	概要	備考
94	その他	エリアが広いので交通網を整備する	
95		ジオパークの理念を語るのは誰か？推進協？市町？いやいやみんなでやりましょう	
96		出来そうなことから進めてほしい	
97		参加者が全員真剣に「連携」を考えている Green Card 確実！！	
98		単位ではできているので縦にする	
99		連携できてないことを修正するより連携できていることのアピールを	
100		小・中・高・大 継続性のあるジオパーク教育を	
101		隣町の町や市と協力して取り組めることを意識して考えたいと思います	
102		山のエリアがほとんど話に出なかったのですが、山も山陰海岸ジオパークに含まれ面積も広いですよ	
103		拠点施設分会の開催→連携強化	
104		建物としてのジオカフェがあちこちにほしい。情報がひろがり連携につながる	
105		取り組みは絵企画段階で共有することが必要 そのためには普段からコミュニケーションをとらないと	
106		周りの地域のいいところを知る！あらさがしではなく！	
107		イエローカードの犯人捜しは意味がない	
108		大切なこと みんな仲良く	
109		自慢話はやめよう	
110		思いは大体同じ	
111		世代間連携難しい・考え方の違い	
112		山陰海岸GP内だけではなく近場のGPとの連携も多く	